

## エピソード50

「ゲーム機を取り上げると、  
泣き叫んで暴れる。どうしたらいい  
かわからない。」



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験が  
あります。  
エデュサポネットのファシリテーターです。



熟年の先生が、最近経験された  
ことをお聞きします。

子どもたちの遊びの中心は、いまやテレビ  
ゲームやスマホ、パソコンゲームです。

最近は保護者からの相談も、ゲームに  
関する内容が多くなってきました。





先生の学級であったことを  
教えてください。

私の学級のやまと君は、最近遅刻を  
することが多くなりました。授業中も  
何となく集中できず、声をかけていました。

するとお母さんから、やまと君が夜遅く  
までゲームをしていて、勉強もしないし  
朝も起きられない、と相談がありました。





家庭でのやまと君は  
どんな様子だったのですか。

「ゲーム機を取り上げると、泣き叫んで  
暴れる。どうしたらいいかわからない。  
これはゲーム依存なのではないか。」と  
お母さんは困り果てていました。

私は、以前ゲーム依存についての勉強会で  
聞いたことを、お母さんに話してみました。





先生は、どのような話をしたのですか。

今のやまと君にとって、ゲームは大切なものなので、取り上げるのは逆効果だと思う。やまと君もマズイと思っているはず。

夜は何時まで、と家族みんなで決めて、家族みんなが守ることを提案しました。「家族全員」ということがポイントです。





先生は、ゲームに依存する背景を  
どう考えていますか。

ゲームに依存してしまうのは、現実の世界  
が充実していないことが多いそうです。  
なのでゲームの他にも楽しいことを見つけ  
られるといい、ということを伝えました。

学校でも、友だちと体を使って遊ぶ時間を  
増やそうと思っていることも話しました。





先生の話を聞いて、  
お母さんの様子はどうでしたか。

少し安心されて「やまとは、友だちと  
コミュニケーションをとることが苦手  
みたいだし、最近は家族と一緒に何かを  
することもなくなっていたかもしれません。

叱るだけじゃなく、ゲームしかやることが  
ない状況について考えるべきですね。」  
と話されました。私は感心しました。





今回のことを通して、先生は  
どんなことを考えましたか。

現代社会は、人と人が関わる機会が  
少なくなってきたように思います。

だから学校では、子どもたちに、  
人とつながることの楽しさやうれしさを、  
たくさん体感してほしいと思いました。





## なみちゃんの一言

- ICTが急速に発展している情報化社会において、危険性とその対処法などについて、子どもと保護者は一緒に考えていくことが大切です。
- 情報化社会は、教師、そして保護者もまだ誰も経験したことのない社会です。だからこそ、ICTの活用について、子どもと一緒に考えることが必要になります。
- 子どもの生活の質から、ゲームやスマホ、パソコンゲームの利用と利用のルールづくりをしていけるといいですね。

お・し・ま・い



イラスト 尾上樹里  
(北海道教育大学 大学院生)